

発見！自信をはぐくむ独自のとりくみ



箕面こどもの森学園

02.



侍学園スクオーラ・今人

01.

長野県上田市に、若者の自立を支援する学校がある。

学校と名前はつくけれど、決められたカリキュラムはなく、卒業の日も決められていない。それが、生徒を受け入れている。

侍学園は、「学びや新しい自分の出会いを求める全ての人々の為の学校」をテーマに、全国から生徒を受け入れている。

学園での生活は、学習に限らず、生きる力を養うためのさまざまな分野に及ぶ。一日のスタートは、朝活から。読書やギターの演奏など、生徒ひとりが好きななことに時間を使い、自らを探求する。他にも、職業人講話という、公務員、美容師など色んな職業に就く人達の話を聞く授業があつたり、農業を通じて自然と触れ合う機会があつたり。自分たちで何が必要か考え、実行する力を養う授業が中心だ。

在籍する生徒は、10代から30代と幅広い。学校での集団生活に馴染めなかつた生徒、一度は就職したものの人間関係などに悩み退職した生徒など、ここにやってくる

阪急北千里駅から約15分歩くと、住宅街の中に温かな色合いを見えてくる。学園には、6歳～13歳の子どもが約30名在籍している。

学園のスタッフは子どもとの対等性を大切にしている。子どもたちはスタッフのことを「先生」ではなく「○○さん」やあだ名で呼ぶ。そうして縦ではなく横の関係を築くことを大切にしているのだ。また子ども同士が喧嘩をした時は、一面だけを見てどちらが悪いと判断するのではなく、お互いの言い分や理由を聞くことを大切にする。

子どもたちはプロジェクトの時間に自主的に物事に取り組むが、その背景には自主性を引き出すスタッフの努力や環境づくりがある。自分から動けない生徒は参考書や、過去の生徒の作品例などの豊富なお手本、レシピを見ることができる。隣の子どもがやっていることを見ることで、やりたいことを自然に見つけることができる。個別学習では、一ヶ月ごとに何を

「自己決定と対等性」が大切に



認定 NPO 法人
箕面こどもの森学園
代 表 者：辻 正矩
活動開始年：2004 年
住 所：大阪府箕面市小野原西 6-15-31

勉強するか自分で計画を立てて、一週間にごとにふり返りをする。大人から言われるのではなく自分で決めた学習に取り組むのだ。子どもたちのやり方を見ていくと、「そのやり方では失敗してしまうかもしれない」と思うこともある。しかしスタッフは子どもに聞かれるまで何も言わない。自分のやり方でやりたい子どももいるからだ。子どもは失敗を認めたくない、もし大人から「ほらみろ」という態度を取られると子どもの人格を傷つけてしまう。だから、子どもが相談をしてきた時は「僕は○○だと思うよ」というアイメッセージを送る。また失敗しても「半分まで出来ているよ！」と子どもの挑戦を励ますようにしている。

失敗することが怖い生徒に対しては、簡単な成功体験を積ませることを大切にしている。一人で出来ないことはスタッフが途中までフォローをして、最後の少しの部分を子どもにさせ「出来た」と思えるようになる。

様々な人の生き方、考えに触れ、チャレンジを繰り返す中で少しずつ生徒に自主性が芽生え、「こんなことがしたい」という気持ちが湧いてくる。それが、新しい生活への大きな第一歩だ。

スタッフや生徒同士、学園を支える様々な人々との関わり、寮での共同生活などを通じて、生徒は

生徒自身の考えを大切にし、チャレンジしつづけられる環境をつくることに徹する。

様々な人の生き方、考えに触れ、チャレンジを繰り返す中で少しずつ生徒に自主性が芽生え、「こんなことがしたい」という気持ちが湧いてくる。それが、新しい生活への大きな第一歩だ。



認定 NPO 法人
侍学園スクオーラ・今人
代 表 者：長岡 秀貴
活動開始年：2004 年
住 所：長野県上田市本郷 1524-1

事情はさまざま。そんな生徒ひとりひとりが、生きる力を身につけ、再び社会の中で自分らしく生きられるようサポートするのがスタッフの役割だ。スタッフは、親でもなければ、先生でもない。生徒と一緒に成長できる「共育」を目指す存在、あえて言うならナナメの関係だ。

スタッフはいつも笑顔でいることを大切にしている。笑顔でいるから、生徒はスタッフに安心感を感じて、「ここに居ていいんだ」という気持ちをもつ。そんな日々の関わりの中で、生徒とスタッフは信頼関係を築いていく。

次第に未来に目を向けるようになる。卒業の日を決めるのも、生徒自身。侍学園で何を得たのか。最後にそんなことをスタッフと考えながら、新た人生へと踏み出していく。